

【様式4】

令和6年度宮本公民館事業計画

1. 地域の状況

宮本公民館のある宮本地区は JR 船橋駅の東側に位置し、江戸時代には五日市と呼ばれ、九日市と呼ばれていた海神とともに宿場町として栄えたところである。宮本の名のとおり意富比神社（船橋大神宮）、茂呂神社、西福寺をはじめとして神社・仏閣が多く、また、管区内には3校の小学校や中学校と合わせ、千葉県立船橋高等学校や船橋市立船橋高等学校があり、静けさのなかにも活気ある土地柄である。

管区は、宮本・市場・東船橋・東町・駿河台の約 4.0 ㎢が対象となっており、令和 6 年 4 月 1 日現在、世帯数は 22,025 世帯、人口は 42,577 人である。

公民館は、旧宮本小学校(古くは五日市尋常小学校)の跡地という古くから地域の中心地として位置づけられた土地に建てられたため、学びの場を核としたコミュニティへの参画や地域課題の解決を図る場として、住民からの期待も大きい。

交通の便も、JR 船橋・東船橋駅両駅から徒歩約 15 分、京成大神宮下駅から徒歩 8 分と良いため、市内全域からの利用がある。

2. 地域の課題

- (1) コロナ禍で停滞した地域での人間関係の復活を目指し、地域で進められている世代を超えた結びつきや、地域への愛着心の育成、心安らぐ地域コミュニティづくり等の更なる推進。
- (2) 宮本地区の高齢化率は市内の平均よりも低い状況ではあるが、宮本公民館に登録している社会教育関係団体の構成員の高齢化は進んでおり、新しい会員が増えないことにより活動の継続が難しくなる団体が出てきている。
- (3) 宮本地区の年少人口の割合は市内の平均的な状況となっているが、管内でのマンション建設が予定されており、今後は、青少年の健全育成や居場所づくり、また、親子が参加できるイベントの開催の需要が高まってくる。

3. 重点目標

- (1) 町会・自治会、地区社会福祉協議会、その他地域における様々な団体と連携を図り、多様化する市民の学習ニーズを捉えて、学びの場の提供と教養の向上に努める。
- (2) 公民館を利用する団体の活動を支援し、また学習成果を活用する機会を提供することで、社会教育関係団体の活性化に努める。
- (3) 併設されている児童ホームと連携し、スポーツ・レクリエーションや体験学習をとおして、青少年の健全育成や居場所づくり、また、親子が参加できるイベントの開催に努める。
- (4) 高齢者が心豊かにうるおいのある生活を送れるよう、学習機会の充実を図り、交流・生きが

いの場となるように努める。

- (5) 各種コンサート等を開催し、多くの市民に良質な音楽事業等を提供できるよう努める。また、小ホールの利用ができる場として、各種団体等に学習成果の発表や交流会等の機会を提供するように努める。
- (6) 地域住民の読書活動を推進するために、宮本公民館図書ボランティアと協力し、図書コーナーである「ほんの森」を有効的に活用し、公民館図書室の利用促進に努める。